

国分尼寺とは

奈良時代の天平13(741)年、聖武天皇の「国分寺建立の詔」により、国(現在の県に近い)ごとに僧20名をおく金光明四天王護国之寺(こんこうみょうしてんのうごこのてら・国分僧寺)と尼10名をおく法華滅罪之寺(ほっけめつざいのてら・国分尼寺)が建てられた。上野国分尼寺跡は、史跡上野国分寺跡(上野国分僧寺)の東に存在した。

国分僧寺・尼寺では、国を護り繁栄させる教を説いた経典を唱えたり、暦(こよみ)や薬の知識など最新の学問についての研究がされていた。

平成29年3月20日(月)
高崎市教育委員会

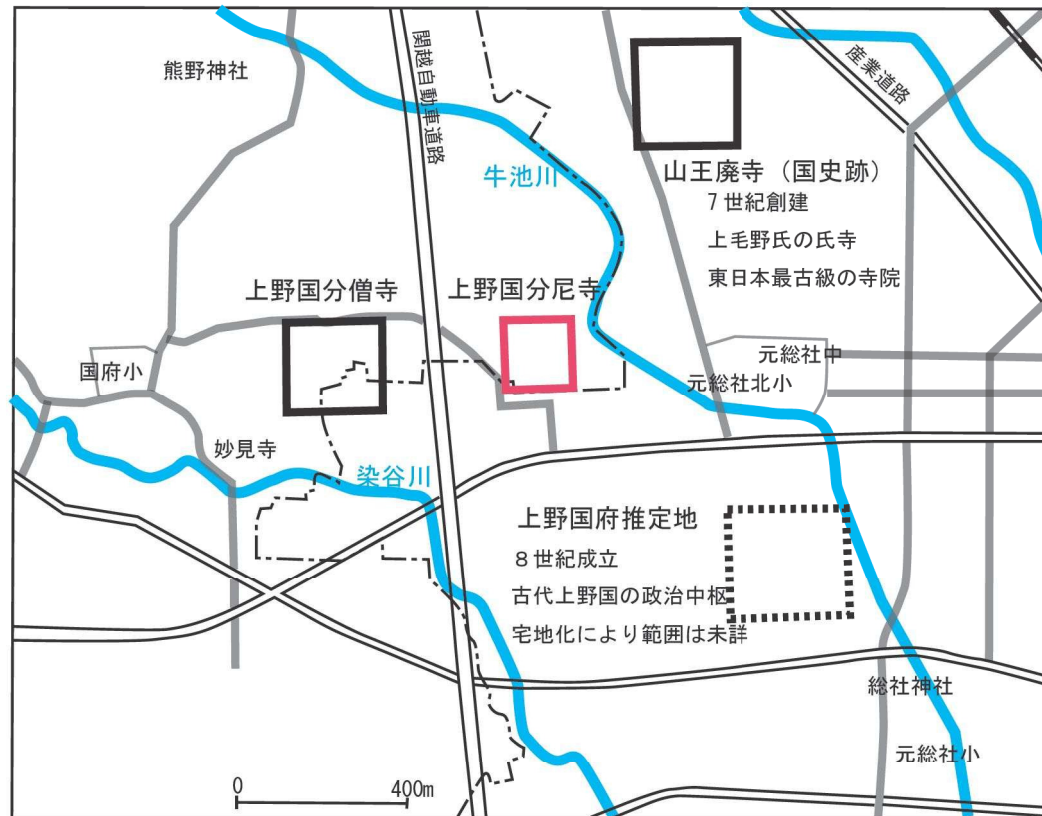
平成28年度

上野国分尼寺跡確認調査 現地説明会

高崎市教育委員会では、今年度から上野国分尼寺跡の範囲や内容を明らかにするための確認調査に着手しました。今後関係者の方々にご理解・ご協力をいただきながら、調査を継続していく予定です。

上野国分尼寺跡は、昭和44年・45年に実施された群馬県教育委員会の発掘調査で存在が確認され、その後50年近く本格的な発掘調査は行われていませんでした。

第1次調査は講堂跡及び東門跡と推定されていた地を対象に、平成28年9月に着手しました。調査の結果、推定講堂跡は尼坊跡であったことが判明し、良好に残る全国でも貴重な例として注目されています。一方推定東門跡は門ではないことがわかり、再び東門跡を探ることが今後の課題となりました。



用語解説

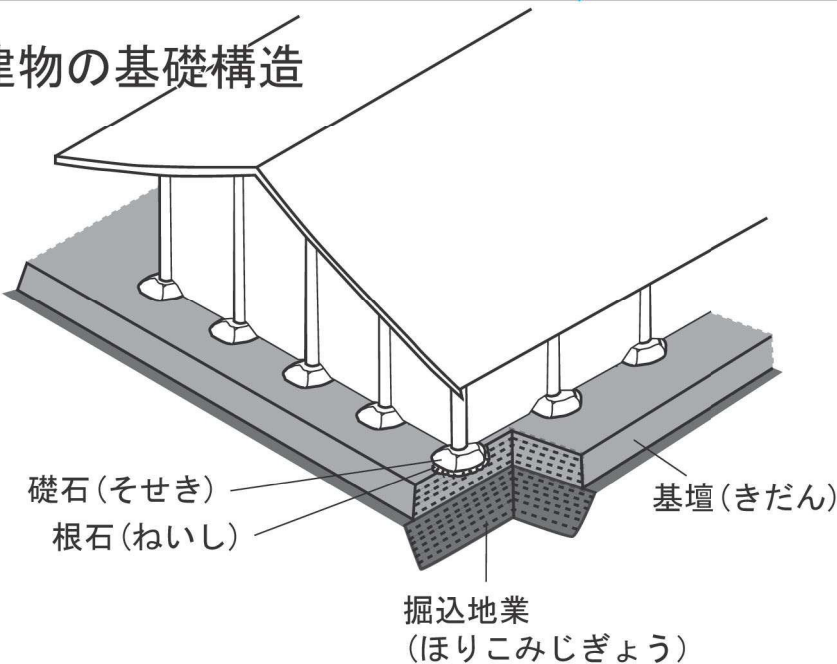
尼坊(にぼう)
尼が日常生活を送る宿舎。僧寺では「僧坊」。

伽藍(がらん)
寺院の主要建物群。

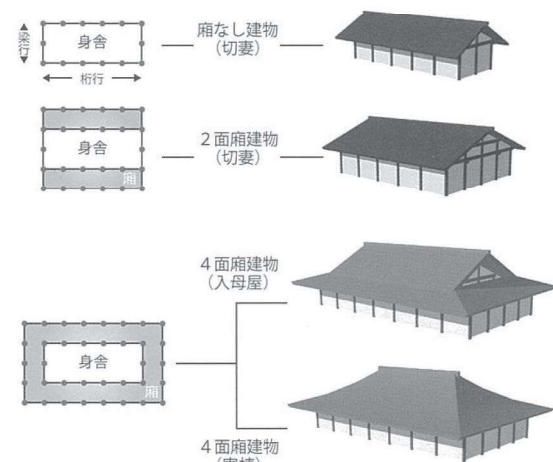
金堂(こんどう)
本尊を安置する建物。伽藍の中心的建物。

講堂(こうどう)
経典の講義や説教をする建物。

建物の基礎構造

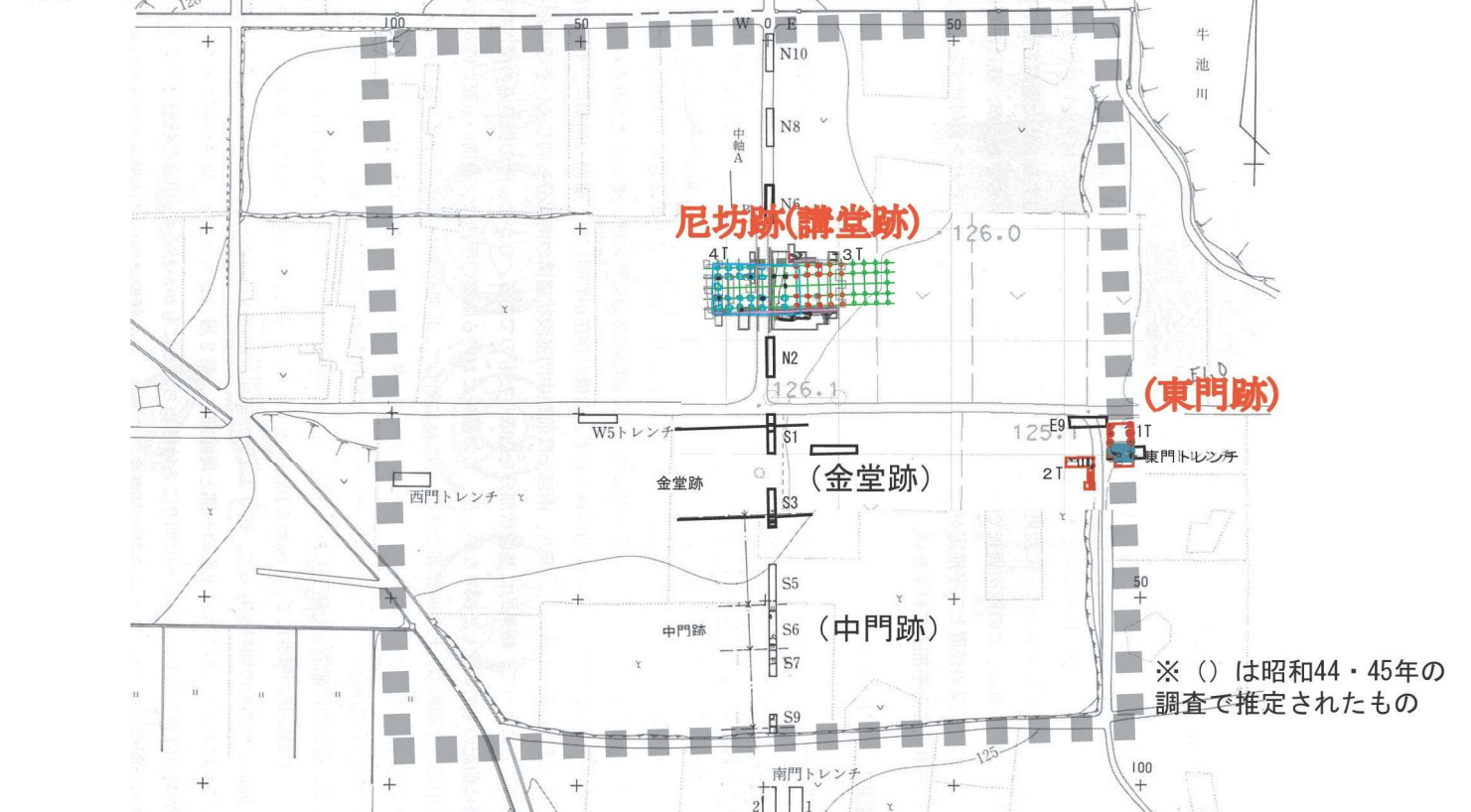


建物の上屋(うわや)構造



※『武蔵国分寺のはなし』国分寺市教育委員会2014より

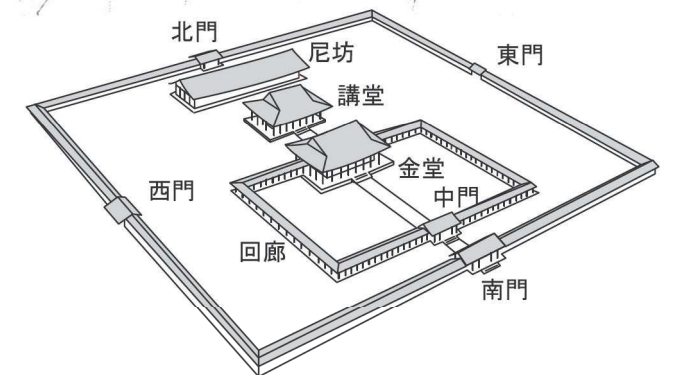
調査区配置図



出土した軒丸瓦



上野国分尼寺建物配置想像図



※これまでの発掘調査資料や上野国分僧寺復元図を参考にしています。

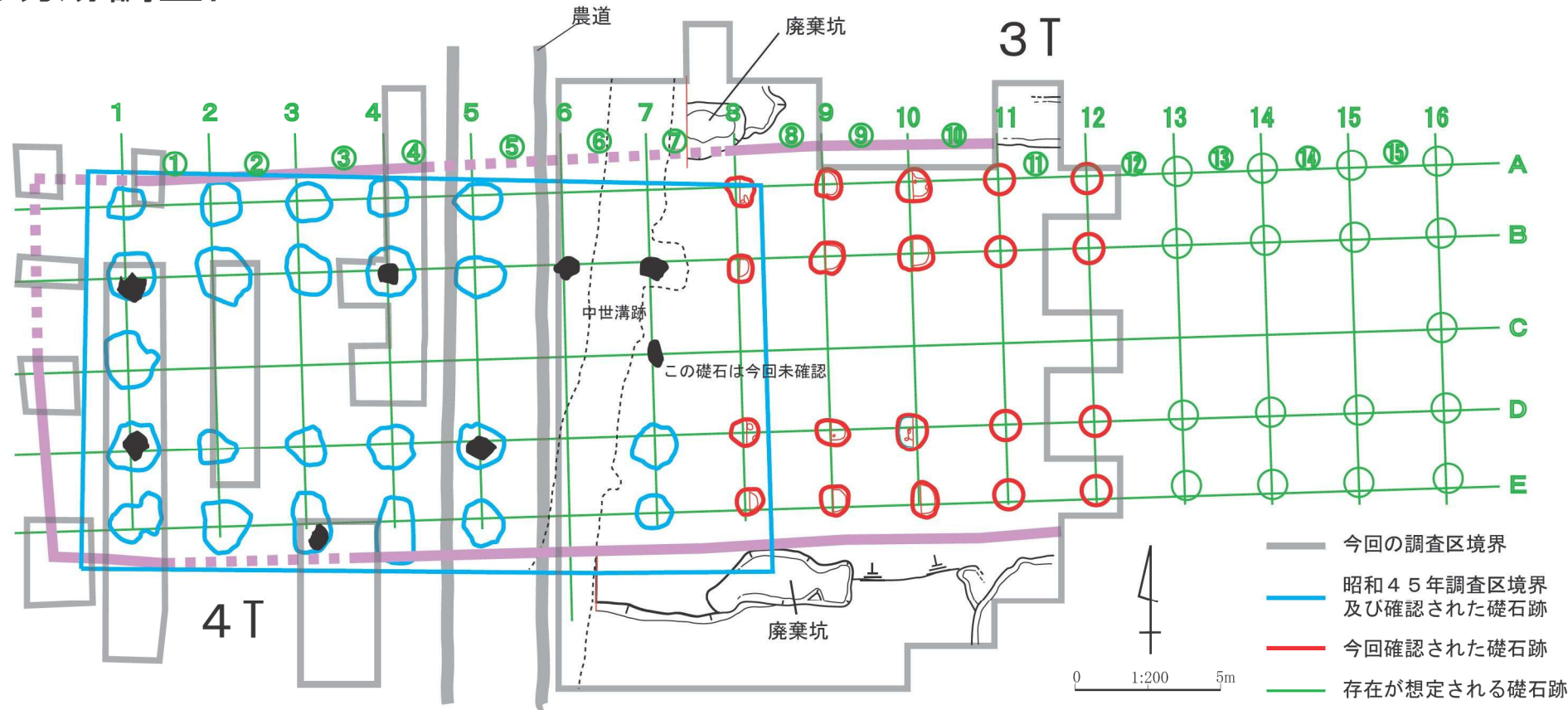
臨時職員募集!

高崎市文化財保護課では、埋蔵文化財の発掘調査を行う臨時職員を募集しています。

- ・勤務 月曜日～金曜日
8時30分～16時30分
- ・時給 880円
- ・申込 高崎市役所15階 文化財保護課
TEL 027-321-1292

上野国分尼寺跡確認調査 現地説明会資料
編集・発行 高崎市教育委員会文化財保護課
住所 高崎市高松町35-1
TEL 027-321-1292

尼坊跡調査区



昭和45年調査時の写真(西から撮影)

東西18m (6間)・南北10.8m (4間)の南北に底(ひさし)をもつ切妻造りの講堂跡と想定されていた。



西辺部から推定金堂跡付近を望む(北から撮影)
手前の礎石は1-Bである。



性格不明の巨大な礎石

廃棄坑から出土した大量の瓦(北西から撮影)



掘込地業の断面

南辺基礎部分の断面(南西から撮影)

いつの頃か火災が発生していた。基壇裾には大量の炭化材や壁材と思われる焼土塊がみられた。



1Tで確認された掘立柱建物跡(南西から撮影)

東西2間・南北3間以上となり、柱穴間の距離は2.5m前後。柱穴内には柱受けの平らな石が残るものがある。

推定東門跡調査区



建物基礎のような硬い面がある。

古代溝跡
瓦が多く出土

- 今回の調査区境界
- 昭和44年調査区境界及び確認された柱痕跡
- 今回確認された柱痕跡及び溝跡